

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079300184		
法人名	社会福祉法人 添寿の里		
事業所名	グループホーム添寿の里	ユニット名	東館
所在地	福岡県田川郡添田町大字庄1123-1		
自己評価作成日	平成25年2月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月13日	評価結果確定日	平成25年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する福祉施設との交流や地域の様々な行事への参加、馴染みのある場所での散歩やお店での買物を積極的に行ない、入居者様のできる様々な家事を提供しながら、生きがい・やりがいのある暮らしをしていただき、笑顔と笑い声の絶えない施設サービスを目指している。又、これまでに築いてきた家族との信頼関係を大切にし、協力を得ながら施設運営を行なっている。運営推進会議は2ヶ月に一回 定期的に開催し、家族からの意見や要望・行政職員や社会福祉協議会からの情報提供などを得て、施設運営に生かしている。特に、6月・12月の運営推進会議は、家族会を兼ね入居者も加えた大規模な会議で意見交換・交流の場となっており、いただいた意見を施設運営に役立っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創設者の思いが込められたホームであり、現在も管理者や職員はその思いを大切に事業所運営に取り組んでいる。理念の中の「あんきに のんきに」の言葉を大切に捉え、年2回発行している事業所便りは「あんのんだより」の名称で発信され、職員互助会は「あんのん会」と名付け活動している。理念の実践を運営に反映させて行くことで、家族や地域の方々との信頼関係の構築を図り、運営推進会議後に行われる年2回の家族会には、入居者、地域関係者、医師、看護師、調剤薬局薬剤師、町役場担当者、地域包括支援センター職員等の参加があり、家族も多数参加し開催されている。運営推進会議や家族会の成熟度が高く、関係者とともに支え合う関係作りに取り組んでいる。職員個々が担当する研修体制も充実しており、今後も個別性ある支援の追求とともに、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関横に大きく親しみのある字で理念を掲げ、常に職員の眼に入るようにして意識付けを行なうと共に、勉強会などで学習し実践につなげている。	職員が持ち回りで担当する研修の中で理念を取り上げ、共有や浸透を図っている。また、日々の朝礼時には、その日の担当者が目標を設定し、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	添田町のイベントや近隣の他の施設の行事に参加したり、添寿会の夏祭りでのアトラクションの発表や文化祭での作品発表と活動を続けている。又、幼稚園・小中学校との慰問や交流にも努めている。	運営推進会議等を通じて地域情報を収集し、地域や行政、法人内の行事には積極的に参加しており、入居者の方々にとっての楽しみごととなっている。散歩している時や行事に参加した時には、地域の方達との自然な交流の場面があり、保育園や小学校・中学校との継続した交流の機会をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達との関わりを活かし、施設訪問の受け入れや認知症の相談に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を行ない、施設状況の報告・事故やヒヤリハット報告を行なうと共に、御家族からの要望や施設の気になる点を話し合っている。又、行事予定を報告すると共に添田町の行事予定を確認し、施設運営に役立てている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期開催されている。家族代表、町役場担当者、地域包括支援センター職員、地域代表(消防団)、医師、薬局調剤師、介護支援専門員、職員代表等、参加メンバーも多い。事業所から状況報告等を行い、地域からの情報提供や家族からの要望・質問などをもとに話し合いを重ね、サービス向上に活かしている。また、6月と12月には、会議後に家族会を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	こちらから市町村に出向いたり、市町村担当者の方に施設へ来て頂くなどして、コミュニケーションを取り合いながら協力関係を築いている。又、市町村担当者の方も協力的である。	運営推進会議の中で、町役場高齢者福祉課担当者、及び地域包括支援センター職員との情報共有や意見交換を行っている。会議以外にも、福祉課担当者やケースワーカーの訪問がある。事業所からも町役場に出向いたり、電話連絡を行う等、日頃から連絡を密に図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員が意識するよう、身体拘束排除宣言を掲示すると共に、マニュアルをいつでも閲覧できるよう整備し、社外研修に積極的に参加すると共に、そのような事例に遭遇した時には朝夕の申し送りや職員会議にて話をしケアに生かしている。	玄関等の出入口に施錠は行っていない。目に付きやすい場所に身体拘束排除宣言を掲示し、日頃から共有認識を図っている。職員がいつでも閲覧出来る様に、各ユニットにマニュアルを置き、社外研修後には、参加者が月1回の職員会議で伝達研修を行っている。朝夕の申し送り時や職員会議では、言葉による抑制についても話し合い、意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や社内研修にて、各種の虐待により、刑事罰・損害賠償が発生する事を認識させると共に、虐待に発展する可能性の有る事例などを示し、発生防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立の為に支援事業を活用されている利用者はおられない。成年後見制度については、諸資料を基に職員間で勉強会を開くなどして知識の共有をはかりながら、お尋ねのあった時には施設窓口で質問に答えるようにしている。	町役場担当者により、権利擁護に関する制度についてのパンフレットを届けられる。事業所に常備し、ポスターを掲示している。現在、制度を活用している方はいないが、何時でも対応可能なように、町役場での研修や出前講演、職員会議の中で勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には疑問の残らないように説明を行ない、契約時も再確認をし疑問点に答え不安を与えないように配慮している。解約時には事前に連絡を取り合い、次ぎの生活の場の手配に不安を与えないよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園される御家族や運営推進会議参加の御家族より、施設に対する意見や要望を聞かさせていただいたり、家族会のおり御家族へのアンケートの実施を行ったり、御意見箱を設置し皆様からの意見を吸い上げ、施設運営に反映させるよう努めている。	面会時や運営推進会議、年2回(6月・12月)の家族会等において、意見や要望等を話し合う機会を設けている。12月の家族会では満足度アンケート調査を実施し、事業所内には意見箱が設置されている。出された意見や要望等については、職員会議で話し合い運営への反映に努めている。改善・解決策については、次回の家族会にて報告を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めに行事の追加や見直し・施設設備に関する意見・運営のシステムに関する改善案等の企画を提出していただき、検討している。又、毎月の各種会議の場で決定事項の確認及び進捗状況を確認する体制を作っている。	月1回の職員会議の前に各ユニットで話し合い、リーダー会議、職員会議で出された意見・要望について検討を行い、運営に反映させている。玄関スロープや浴室の手摺は職員の提言が反映されたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、運営者に報告すると共に、個人の能力を認めこれからも頑張れるように、励ましと支援を行なっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別により、採用の対象外とすることは無い。本人のやる気と、お年寄りが好きである事を基準に採用している。利用者と職員が生き生きと笑顔で過ごせ、やりがいを持って働けるよう環境に配慮している。退職年齢は65歳だが、本人が望むならば再雇用も考えている。	年齢や性別による採用時の排除は行っていない。職員採用にあたり、明るく挨拶が出来ることや、高齢者への対応を基準にして採用している。現在、20代から60代まで幅広い年齢層で構成され、各世代間の考えや特技が業務に活かされている。65歳での定年制は設けているが、再雇用制度がある。無資格者にはヘルパー2級資格取得のためのサポートも行われ、スキルアップの為に外部研修にも積極的に参加している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	虐待・身体拘束・プライバシーの保護等、人権に関する事項を社内研修会に盛り込み、職員への人権教育に生かしている。	年間研修計画の中で人権研修を行っている。外部研修では、町役場で開催された人権研修に参加し、職員会議で伝達研修を行っている。日々の業務の中では、朝・夕の申し送り時等に話し合い、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員との連携、チームケアの必要性など、質の向上を考え、職員の育成を念頭に置き、法人内研修や外部研修・施設内勉強会をつうじて、実践に活かせるように努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の必要性を認識し、お互いに施設訪問・見学などを行ない、情報交換や相談を行なっている。又、月1回のグループホーム協議会に参加し、親睦をはかり、意見交換を行なっている。		
II.安心・信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の悩み・不安・要望等あれば、話を傾聴しこれらの問題を解決するよう配慮し、信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせや施設見学の段階より、不安や質問に答え、家族の要望を傾聴し信頼関係を築くよう努めている。又、サービスの提供を始める段階でも同様である。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際よく説明を行ない、更に他のサービスの説明を行ないながら、希望や要望をお聞きし、本人や家族にとって一番良い方法は何かを見つけ出し、サービスの提供が出来る様に話し合っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係ではなく家族と考え、お互い協力しながら、励ましあい共に喜怒哀楽を共有し、共同生活を送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ずして、利用者を支えていくには限度もあり、御家族との話し合いや協力を得て、利用者本人を支えていくよう努力している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が尋ねてきたときには、家庭と同じような雰囲気味わえるよう、お茶やコーヒーの提供を行ない、馴染みの人との関係が継続出来る様協力すると共に、馴染みの場所へのドライブに行く等の支援に努めている。	家族や友人、知人の面会も多く、和やかな雰囲気作りに配慮している。馴染みの場所への買い物や地域の行事参加、神社参拝、又、帰宅願望の強い方にはドライブで自宅までお連れする等、馴染みの人や場所の関係が途切れないように支援を行っている。	

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室の充実を図り、交流しやすい空間と楽しく家庭的な雰囲気を作り、一つの家族として支えあえるように努力している。また、行事等に出来るだけ参加していただき、利用者同士が関わり合える状況作りを行なっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院者や契約修了者には、こちらから訪問し、今後の対処方法など不安な事の相談に乗ったり安心していただく等、不安が解消できるよう、できる支援を行なっている。		
Ⅲ. 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・御家族からの要望を聞き、希望に沿った支援を行なっている。又、聞き取りの困難な利用者については日常生活の中で察したり、気付いた事をプランに生かすよう努力をしている。	日々のかかわりの中で希望や意向を収集し、困難な方には思いを察し把握に努めている。職員の気づきは記録に残し、職員間の情報共有を図り、介護計画作成に活かしている。今後は更に、「本人の思い」に結び付く情報収集やカンファレンスが期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集や関係する諸機関からの情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜を通し、全職員が利用者を支援し、共に生活していく中で利用者個々の心身状態を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意見を反映し、その人らしい生活が送れるよう、職員間で意見やアイデアを出し合い、長期目標・短期目標を設定し介護計画を作成している。	計画書に沿ったサービス実施記録があり、毎月、介護支援専門員がモニタリングを行っている。本人、家族、関係者が参加する3ヶ月ごとの担当者会議では評価を行い、意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画作成に努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別のケース記録・ケアプラン実施表に記録すると共に、日々気付いた事や支援する上での工夫などは申し送りノートで、情報の共有が出来る様になっている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見や要望を可能な限り聞くよう心掛けており、互いの協力や要望をいつでも話し合える状況を作りつつ、コミュニケーションをとり取り合いながら支援できる体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場・地域包括支援センター・運営推進委員会等からの情報をもとに、地域でのイベントに参加するなど、利用者が楽しんで活力ある暮らしが出来るように取り組み支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一度の往診に加え、利用者の状況に応じスポット的に見て頂いており、専門医療による受診の必要な時は、御家族への説明・説得に協力して頂いている。又、家族会の折に希望される御家族には利用者の状況説明を行なって頂いている。	運営推進会議や家族会には医師も参加する機会があり、日頃から職員や家族との関わりが深い。看護師もかかりつけ医との連絡を密にし、入居者の健康管理を行っている。週1回訪問歯科や必要時には専門医への受診など、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と医師や御家族との情報交換を行いながら利用者の意見も取り入れ、適切な看護や受診が受けられよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病状にあわせ、掛かり付け医と施設や御家族と意見交換を行いながら、医療機関との連携により、その方がより良い治療を受けられるようにコミュニケーションをとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したした場合の対応を入居時や状況の変化に応じて説明をし、承認を受けている。又、重度化した場合には、御家族と医師と施設で利用者本人にとって何が一番良いのかを話し合い、利用者にとって一番良い支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時や状況の変化に応じて、本人・家族に説明を行い、同意を得ている。重度化した場合は、家族や医師、職員、地域関係者との話し合いを重ね、これまでに看取りを行った経緯もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の折、事故報告やヒヤリハットの報告を行ない、危機感を共有すると共に、事故発生時の対応の反省を行ない、実践力を身につけている。又、緊急連絡網を整備し、応援体制に生かしている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災マップでの避難場所を把握するとともに、年2回の火災避難訓練・年1回の防災訓練を実施している。又、緊急時の連絡網を整備し、近隣施設への協力体制を作っている。	年2回(昼・夜)の避難訓練を実施している。添田町役場から配布された地域防災マップをもとに、震度7を想定した防災訓練も実施されている。非常時の備蓄品として、日用品や2日分の水や食品を確保している。近隣の同法人施設との連携体制の確認や、運営推進会議には地域消防団からの参加も得ている。	
IV. 人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを念頭に置き、その方の人格を傷つける事のないよう、言葉使い・接遇には注意し支援をしている。又、その方の人権を尊重する意味でもプライバシーを損ねる事のないよう配慮をし、施設内研修でも再確認をしている。	内部研修や1ヶ月間の新人研修において、人格の尊重や、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応について研修を行い、日々の中では朝夕の申し送り時や、気づいた時にはその都度注意・指導行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のは話を傾聴し、なるべく本人の思いを生かした、本人が納得できる支援を心がけている。又、話の出来ない利用者に対しては、日々の生活の中で観られる表情や動作でその方の思いや希望を察するように気を配っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「地域の人達と共になれそみのある場所で笑顔で自分らしい生活を送れるように支援する」を施設の理念として、本人のペース・希望に合わせた支援を行なっている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望に合わせ、美容室に定期的に通ったり、出張理容を利用している。普段から整容には気をつけているが、特に、外出や行事のある時には女性は全員お化粧をし、男女とも社会人として恥ずかしくない整容をするように心がけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の献立を自由献立とし、月に一度はその時期の旬の物を使用した食材を使い、利用者の意見を取り入れたメニューとして、利用者と共に買物をしたり、準備、片付け等を一緒に行ない生活を楽しんでいる。	調査当日は、入居者により下ごしらえされた土筆が食卓に上り、職員とともに会話と食事を和やかに楽しむ時間となっていた。毎週日曜日の自由献立の日には、献立作成や買い物をもとに行っている。また、3ヶ月に1度は全員で外出に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる。調理準備や後片付けを、暮らしの営みの役割として担っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事量や水分量を記帳し、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、食べる量の少ない方には、食事回数を増やしたり、代替品で対応している。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じた声掛けや介助を行なう事で歯磨き・口腔内のすすぎを行い、口腔内の清潔を保つと共に、入れ歯の洗浄や消毒・入れ歯の管理を行い口腔ケアに勤めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者各自の排泄計画のもと、残存能力を活かし羞恥心やプライドを考慮した声掛け、トイレ誘導、ポータブルトイレ誘導の援助を行いながら自立支援に努めている。	個別の排泄パターンの把握に努め、個別の状況に応じたアプローチを行っており、昼夜間を通してトイレでの排泄支援が行われている。声かけや対応については特に留意し、プライドや羞恥心への配慮を念頭に置いている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、2回の体操と歩行訓練など適度な運動を促しながら、食事に繊維物を添えるなどの配慮を行なうと共に、排便がないときには腹部マッサージや牛乳冷水などを用い、できる限り気持の良い排泄が出来る様に心がけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添えるよう毎日入浴できるようにしている。又、本人の希望に合わせてゆっくりと入浴できる環境を整備し、必要に応じ見守り・介助をさせていただきながら、身体の観察を行い本人の状態把握にも努めている。	毎日の入浴に対応している。疾患や体調、希望等を鑑み、2日に1回は入浴できるよう支援している。入浴剤や季節感ある柚子湯・菖蒲湯などで、四季を通じて入浴を楽しむことが出来るよう工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の動きや体調を把握し観察を行いながら、夜寝れない人には昼に多目の運動や散歩を行ったり、疲れている人には多目の休息時間を設けたりと、個々の利用者のその日の状態に合わせた支援を行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の情報やお薬台帳により、その方の病歴・服薬している薬・その薬の効能・副作用を確認し、利用者に症状の変化が観られたときには掛かりつけ医や薬剤師に状況報告ができるように心掛けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴に注目し、お茶・カラオケ・縫い物などその方の得意とする分野で気分転換を図っていただくと共に、家事・花の手入れ・草むしりなど本人が好きな作業に協力をお願いし、共に生活し、張り合いがもてるように支援をしている。		

福岡県 グループホーム 添寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や状態に合わせ、散歩をしたり、買物を楽しみたい利用者には本人の買物に同行したり、施設の買物をてっだって頂くなど本人の希望に沿った外出を行なっている。又、毎月行事計画をたて、見物や外部の行事参加・外食・ピクニックやリンゴ狩り等の、外出を楽しんでいただいている。	希望や体調、状況に応じて、周辺を散歩したり、庭に椅子を出し、外気浴や日光浴をしている。ドライブでは、馴染みの場所や個人の買い物に出掛けている。毎月、希望や要望に沿った行事計画を立て、普段行けないような場所へは、家族や地域の人々の協力を得て、外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度自己管理できる利用者には、お買物の時には、お金を所持していただき、職員が立会い確認の上、買物をしていただくように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば用件を確認し、何時でも電話を使用出来るようにしている。又、本人が落ち着かず家族との会話を望んでしていると判断した時には、声掛けを行ない電話をしていただいている。手紙を書ける利用者には、年賀状を出すよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節に応じた飾り付けや各月の行事のお知らせを掲示している。又、廊下には最近の利用者の行事の写真を掲示し、思い出に浸れるように配慮している。その他、食堂には利用者と協力して作成した季節に応じた作品を掲示して、和やかな雰囲気作りを行なっている。	玄関ホールには、季節の花々や、四季折々の季節行事の飾り物が置かれている。入居者が新聞を読みながら過ごしていたり、ホールから続く廊下では、歩行器・手摺り・車いす介助等で、各ユニット間を自由に行き来している姿を見ることが出来た。広々と明るい共有空間は、笑顔と笑い声に包まれ、居心地良く過ごせる雰囲気作りが出来ている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファやテーブルを設置し新聞や雑誌を置く事で、独りの時間を過ごせたり、友人が訪ねて来た時には、テーブルを囲み談笑したり、お茶を飲んだり出来るスペースを確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、情緒安定の為、できるだけ馴染みのある収納可能な家具などを持参して頂くようお願いしている。又、利用者本人の思いの籠った衣類や調度品などを準備して頂く事で、施設に親しんでいただけるように配慮をしている。	各居室には、創立者の想いが込められている家具(畳ベッド・机・椅子)や、自宅から馴染みのある家具・電化製品などを持参され、ベッド傍に観音様をお祀りされている方もいた。居室壁には大きなコルクボードを設置し、行事の写真や小物作品など飾り、居心地の良い空間作りの工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の入り口には写真つきの表札を掛け、自室が分かりやすいように工夫している。又、トイレ・お風呂など、入り口扉に分かりやすい大きな字で部屋名を表示している。又、その方の能力に応じて自立した生活が送れるように努めている。		